

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 24 日現在

機関番号：22101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：平成 21 年度 ～ 平成 23 年度

課題番号：21659537

研究課題名（和文） 公衆衛生看護活動における水俣病からのレイトレッスン

研究課題名（英文） Late Lessons of Minamata disease in public-health-nursing activities

研究代表者 山口 忍 (YAMAGUCHI SHINOBU)

茨城県立医療大学 保健医療学部 教授

研究者番号：30289871

研究成果の概要（和文）：

水俣病発生した後 1965 年以降に公衆衛生看護活動に類似する活動が行われていたことを発掘することができた。それは「移動診療所の活動」であった。活動を行っていたのは、看護職、医療職、資格を持たない人々である。その中でも、看護師である堀田静穂氏が行っていた訪問活動は、保健師の「家庭訪問」と酷似していた。その訪問活動を受けた患者から「家族関係がよくなった」「不安が軽くなった」「地域の活動に患者が出向くようになった」という評価を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：

After carrying out the onset of Minamata disease, it was able to unearth that activity which is similar to public-health-nursing activities in 1965 and afterwards was performed. It was "Activity of IDOU-SINRYOUJYO" Those disqualified, the person of a nursing job, the person of a medical job were working. The visit activities which Hotta Shizuko who is a nurse was performing Public health Nursing the teacher's "home visit" was resembled. Evaluation of "family relations having become good", "uneasiness having become light", and "a patient having come to go to activity of the area" was able to be obtained from the patient who received the visit activity.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
21 年度	700,000	0	700,000
22 年度	800,000	0	800,000
23 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	210,000	2,410,000

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学、地域看護学

キーワード：公衆衛生看護、水俣病、レイトレッスン

1. 研究開始当初の背景

水俣病が公式に発表されたのは 1956 年のことであり、2000 年に原田正純氏が「水俣学」を提唱するに至るまでに医学、法学、政治学、社会学の専門家が関わってきた。研究としては、社会学、医学領域からの研究は多く、公衆衛生分野での最新の報告では「不知火海沿岸地域住民の不公平感と健

康度に関する社会疫学的研究」（牛島ら 2007）など健康格差を提起しているものがある。しかし地域看護の保健師の視点に立った研究論文は非常に少ない。2000 年に宮本、松本により「水俣病患者の QOL 向上に関する一考察」（保健師雑誌）、「水俣病認定棄却が個人の生活や健康に及ぼす影響」（東ら 2007）の学会報告があるくらいで

ある。公衆衛生看護が行なわれていたはずであるが全く明らかではない。

2. 研究の目的

3年間の研究期間に、保健師がどう地区活動を展開していたのかを検証することを目的に着手した。まずは発症当時の保健師活動を明確にし、次にその支援を受けた住民はどのような変化があったのか住民にインタビューをすることでその効果を明らかにする。

3. 研究の方法

初年度は、文献収集と水俣市に行き関連ある施設などの把握を行う。2年目は、保健師活動の把握を看護職を対象にインタビュー調査を実施した。3年目はその活動を受けた水俣病患者さんで現在水俣で生活している人を対象にインタビュー調査を実施した。本研究にあたっては、本学の倫理審査の承認を得ている。また、本テーマの歴史的な重要性から、対象者本人の実名を出すことについては本人に説明し、承諾が得られた人のみを実名を出し、承諾書を得ている。

4. 研究成果

1. 文献収集

平成 21 年度は、保健師活動との関連を明確にするために、Medline を中心に国内及び国外での水俣病研究の文献レビューを行なった。公衆衛生看護に関する文献は一番古い文献は、伊藤蓮尾著「熊本県水俣保健所管内における脳性小児マヒ患者の疫学的考察」（1963 年看護 VOL15-12）であった。発見当初は、何がおこっているかわからなかったため脳性小児マヒとの判別が必要であった。それを補足するための論文として「水俣病の精神症状」（1963 年井上孟文）、「水俣病の神経症状」（1963 年高木元昭）、「水俣地区に集団発生した先天性・外因性精神薄弱」（1964 年原田正純）があり、復刻水俣病論文三部作として出版されている（2009）。水俣学研究センターでの資料収集では、窒素工場に勤務していた労働者の資料発掘や、不知火海漁民の語りを採録した論文「芦北漁民 松崎忠男：女島聞き書」（2009.井上ゆかり）があり、当事者を困む人々の発掘が行われていたことがわかった。

2. 現地での情報収集

現地に赴き、公衆衛生分野に関する当時の資料を収集したり、次年度のインタビュー対象者の発掘を行ったりした。また、水俣病に関する施設（チッソ工場、想思社）を訪問した。水俣保健所と水俣市保健センターの保健師と面接した結果、昭和 30 年当時の活動を知っている保健師が存在していることがわかった。

3. 「水俣に移動診療所を！」の活動の発掘

保健師以外の看護職が、胎児性水俣病の患者宅を家庭訪問したり、医師の移動診療所活動の一環として「たけのこ塾」という健康学習を行っていたことがわかった。看護職である堀田静徳氏（70 歳）は 1969 年水俣病裁判時から水俣病患者にかかわりを持ち以後 1991 年まで水俣で看護活動を展開していた。活動内容は、「患者と共に体をなおす」「地域全体をみて個を知る」「生活の中で改善を図る」という考えのもと、「定期的な訪問活動」「健康学習の開催」「認定申請所書き」「患者と医師や関係機関をつなぐ」「患者、家族の相談」であった。共に活動していたのは、中村健氏（63 歳）近澤一充氏（62 歳）遠藤寿子氏（61 歳）らであった「水俣に移動診療所を」事務局を 1971 年（昭和 46）東京に発足させた。この活動は、患者宅に向いて届ける地域医療活動をめざしそれに賛同したメンバーが集まった。カンパを募りワゴン車一台を購入、メーカーの協力で診療用に改造した。東京での自主交渉（1971 年）が終わった後、医療設備を積んで東京を出発し静岡、名古屋、京都、大阪、熊本に立ち寄りながら水俣に向かった。当時は 200-300 人の支援者がいた。また、相思社（水俣在）の医療部門として出月養生所をつくりそこで薬草の作り方やマッサージなどの民間療法を住民同士が教えあう活動をしていた。多発地区を対象にして、健康便りを住民に渡したり、「たけのこ塾」という健康学習会を行ったり水俣病患者に役立つと思ったことを実践していった。

4. 堀田静徳氏の訪問看護に対する水俣病患者からの評価

訪問頻度は、毎日であったり週に一度定期的であったりした。治療法もなく薬もない中で、医者にはいきたくないと思っていた患者たちは家庭の中で不安がいっぱいで生活しており、堀田氏の訪問で精神的に大変支えになっていた。訪問の内容は、患部のマッサージ、家事育児の手伝い、胎児性水俣病の患者さんを他の同様の患者さんをつなぐ、話を聴くなどが主であった。時には、患者宅で一緒に食事をすることもあり、症状が軽くなる方法を家族とともに暗中模索し心がほぐれるように関わってくれていた。また、対象者が持っている力を引き出そうとしている関わりであった。この訪問を受けて症状が軽くなり他の患者さんたちにも伝えようということになり、しおりを作ったり、みんなで話して、みんなの気持ちをまとめるような運動が広がっていった。

5. 公衆衛生看護活動との関連の明確化

堀田氏の家庭訪問は現在の在宅看護ではなく、相手のセルフケアに着目し、家庭の中で改善を目指す保健師活動に類似する活動であった。また、これらの活動を基にして、

人の気持ちをまとめながら次の活動につながっていったという事実から、保健師の地区活動にあたる活動であったことも推測された。当時の公衆衛生看護活動に代わって、市民による活動が行われていたことが明らかとなった。

〔学会発表〕(計2件)

山口 忍

昭和40年代の水俣病患者への地域医療 — 移動診療所の活動 —

第70回日本公衆衛生学会(秋田)2011年10月

山口 忍

昭和40年代の水俣での移動診療所の活動

第7回水俣病事件研究交流集会(熊本)2012年1月

〔図書〕(計2件)

山口忍,保健師ジャーナル特集,水俣学の扉を開ける,2012.6(印刷中)

山口忍,昭和40年代の水俣における堀田静穂氏と水俣に移動診療所を!の活動(印刷中),2012.8(投稿中)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 忍 (YAMAGUCHI SHINOBU)

茨城県立医療大学 保健医療学部看護

学科 研究者番号: 30289871

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号: